

令和元年度 指定管理施設に係る事業報告概要

施設名	千代田万世会館	所在地	千代田区外神田一丁目1番7号
-----	---------	-----	----------------

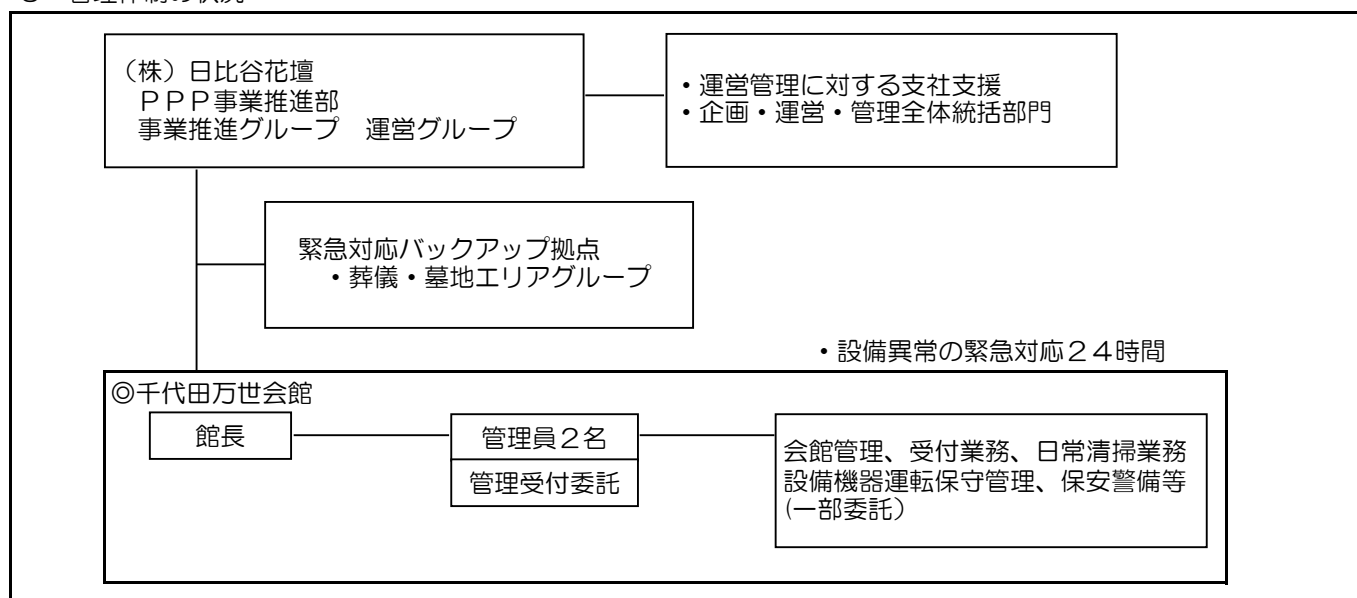
1 指定管理者の概要

名称	株式会社 日比谷花壇	代表者	代表取締役 宮島 浩彰
所在地	東京都千代田区内幸町一丁目1番1号		
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日	報告期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日

2 管理施設の概要

施設の目的	区民に葬儀および法要の場を提供し、区民福祉の増進を図る。
管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・千代田万世会館の施設の利用承認等に関する業務 ・会館の保守及び維持管理に関する業務 ・会館の運営に関する業務

3 管理体制の状況



4 事業実績等

ア 利用実績

令和元年度	①葬儀利用 ※は1日1組の葬儀とし 休館日を除いた日数	②遺体保管用冷蔵庫 ※は1日2遺体利用とし た延べ日数	③会議・法要利用 ※は休館日を除いた日数
(A) 利用可能日数※	357日	730日	357日
利用件数	81件	61件	22件
(B) 利用日数	144日	274日	22日
利用率 (B) / (A)	40.3%	37.5%	6.2%

※休館日：令和元年度は年始（1月1日・2日）及び奇数月最終友引日の合計8日

【参考】過去3年間の実績	①葬儀利用		②遺体保管用冷蔵庫		③会議・法要利用
平成30年度 利用件数・利用日数	91件	154日	51件	248日	32件
29年度	107件	173日	76件	339日	37件
28年度	101件	166日	61件	253日	39件

イ 講座実績

- ・自主事業による講座
 - 5月 母の日フラワーアレンジメント講習会
 - 6月 父の日うちわ&風鈴づくり講習会
 - 10月 ハロウィンフラワーアレンジメント講習会
 - 12月 クリスマスフラワーアレンジメント講習会
 - 12月 お正月フラワーアレンジメント講習会
- ・東京都葬祭業協同組合との連携による講座
 - 10月 葬儀講座（マナー講習、写真撮影）

ウ 施設等の維持管理業務

- ・建物、設備保守管理 ・施設清掃業務（害虫駆除含む） ・消防設備等保守
- ・警備業務 ・音響設備保守 等

5 収支の状況

収 入		支 出	
指定管理料	15,744,000円	人件費	8,701,335円
利用料金	9,654,100円	維持管理費	13,081,502円
その他(自動販売機売上収入)	49,370円	運営費	3,413,073円
合計(①)	25,447,470円	合計(②)	25,195,910円
収支差額(①-②)	251,560円		

【参考】平成30年度指定管理料 15,927,200円

6 指定管理者による自己評価

サービス提供に関して	収支に関して
<p>地域住民サービス拠点としての役割を拡充する目的として正しい葬儀マナーを知って頂く葬儀マナー講習会及び相談会を10月に開催した（東京都葬祭業協同組合との連携講座）。参加促進策として遺影にも使用できる撮影サービスを展開し、参加者に大好評を得た。</p> <p>また、地域住民の交流を図る目的として自主事業イベント（フラワーアレンジの講習会）を5回実施した。アンケートで要望が多かった正月をテーマにしたアレンジ講習会を初開催し大好評であった。各講習会は、顧客満足度100%と最高の実績を上げ、会館の知名度向上に大きく貢献した。葬儀以外の利用窓口を増やすことは、会館利用の新しい顧客層の拡大に繋がっている。</p> <p>さらに、施設を適切に管理運営（安心安全）する保安管理体制を拡充するために日常的にスタッフ教育を実施し、感染症（新型コロナウイルス）拡大など緊急時における迅速な対応ができる体制とした。</p>	<p>収入全体は、計画に対し64.5%の実績と厳しい結果となった。葬儀件数は、81件と前年より10件減り利用件数を大幅に落とした。遺体保管用冷蔵庫の利用件数は、61件、計画75件に対し81.3%と達成できなかったが、利用日数は、274日で前年対比110.5%と大幅に増えた。1件当たりの平均利用日数も4.5日と高い実績である。これは、平成28年度及び令和元年度に導入したご遺体用のトレーによる効果と考えられる。会議・法要件数は、22件（2件法要含む）、計画45件に対し48.9%の実績である。前年度対比は10件減と減少している。</p> <p>支出は、計画に対し89.9%と削減できた。各経費のきめ細かな削減努力が積み重なった結果である。</p> <p>収支は、252千円の黒字を保ったが、計画達成率9.2%と大きく落した結果であった。利用件数及び収益は、前年度から続くダウントレンド傾向が加速した状況である。要因は、ダウントレンド傾向に加え、感染症（新型コロナウイルス）拡大による影響が大きい。今後、葬儀利用者への対応を新しい観点から模索していきたい。</p>

7 区としての評価・今後の方向性

<p>近年の葬儀規模縮小の影響や新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度の葬儀利用は本指定管理期間中で最も低い実績となった。厳しい利用料金収入の中で収支を黒字に保ったことは、指定管理者の日々の内部努力による経費削減の効果であり高く評価できる。</p> <p>施設管理においては、設備保守点検による不具合の早期発見や計画的な修繕の実施により安全性が確保されている。</p> <p>会館周知においては、東京都葬祭業協同組合との連携による講座や自主事業による講座を実施し、参加者から好評を得た。講座への参加が万世会館を知るきっかけになったという意見も多く、会館認知度の向上と葬儀施設に対する敷居の高さの解消につながっている。</p> <p>今後も、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、さらなる葬儀利用の減少が想定される。感染症対策がこれまで以上に重要視される難しい局面を迎えることになるが、区としては会館運営に支障を来さないよう指定管理者への支援を行いつつ、これまでの運営ノウハウを活かした利用者サービスの提供を引き続き期待する。</p>
--